

# 宿泊税の使途について

令和6年度第1回ニセコ町観光審議会  
2024年11月 ニセコ町

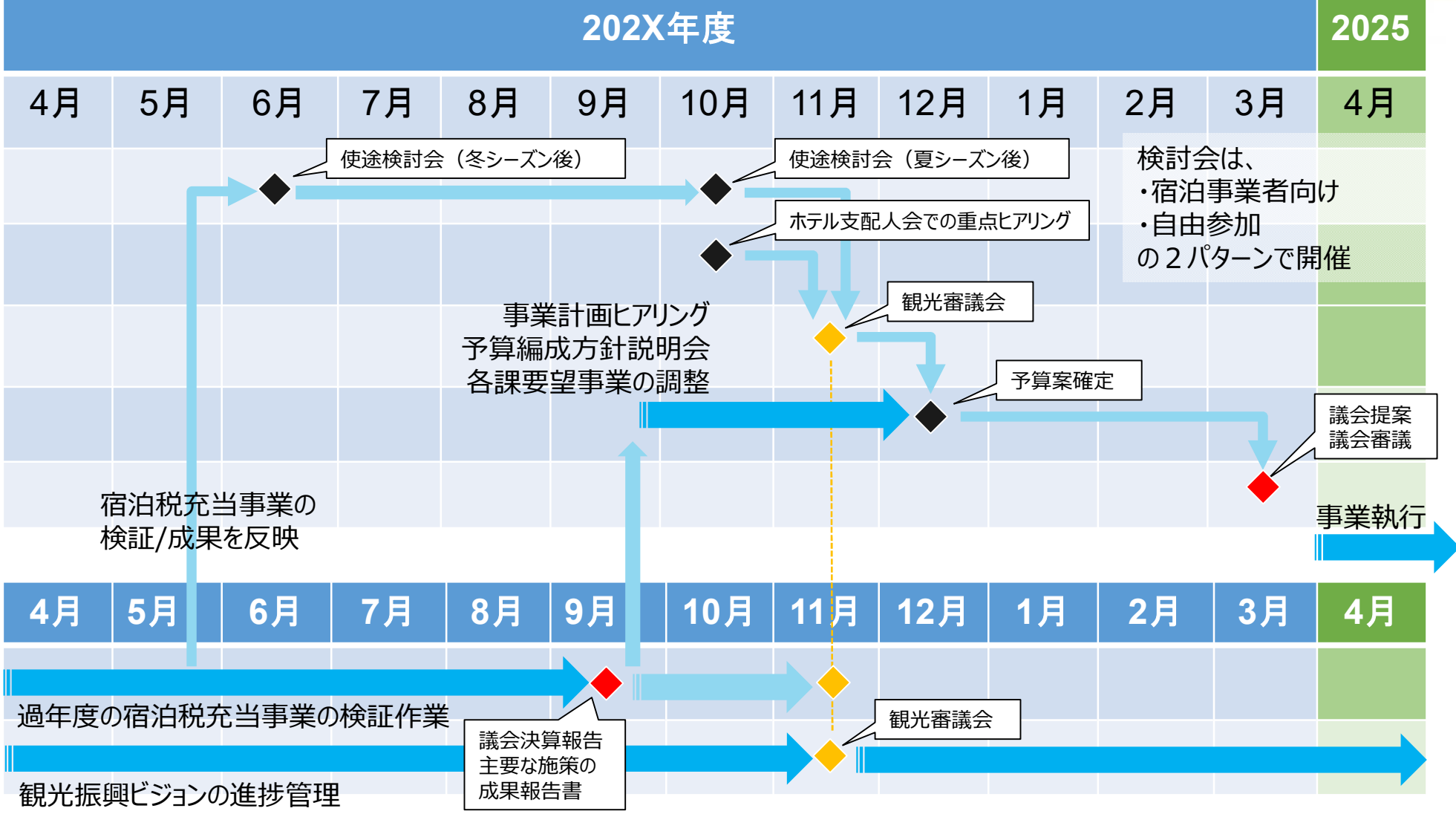


# ニセコ町宿泊税の概要



課税要件	内容
課税客体	ニセコ町内に所在する次の宿泊施設への宿泊行為 ・旅館業法の許可を受けて行うホテル、旅館、簡易宿泊所 ・住宅宿泊事業法の届出をして営む住宅宿泊事業に係る住宅
課税標準	上記施設の宿泊数
納税義務者	上記施設への宿泊者
特別徴収義務者	・旅館業または住宅宿泊事業を営む者 ・宿泊税の徴収について便宜を有すると認める者
税率	1人1泊につき、宿泊料金が (1) 5,001円未満・・・100円 (2) 5,001円以上20,000円未満・・・200円 (3) 20,000円以上50,000円未満・・・500円 (4) 50,000円以上100,000円未満・・・1,000円 (5) 100,000円以上・・・2,000円
想定税収	162,000千円 ※R6:65,000千円
免税点	設けない
課税免除	修学旅行等の宿泊を伴う学校行事（引率者含む）
<b>使途</b>	<b>ニセコ町の優れた景観と環境を保全し、安全で心豊かに過ごすことができる癒しのリゾート地としての魅力を高めるとともに、町民生活と調和した持続可能な観光の振興を図る施策に要する費用</b>

# 使途決定・検証のプロセス/サイクル



議会議決を経た宿泊税充当事業予算/決算は、町HPや広報誌などで周知  
使途については、チラシ作成・アイコン表示など、宿泊者・町民への露出も工夫

# 使途決定プロセスについて（2024年度）



9月～ 個別事業者回り（税務課：特別徴収義務者証の交付等） **実施済**

小規模事業者懇談・意見交換 モイワ・アンヌプリ・東山の3地区で実施済み



庁内事前要望調査

10月 使途検討会の開催 ※10/23：2回(13:30いろは、18:00町民センター)、10/25：1回(13:30中央倉庫群)  
※2025年度以降は年2回（計4回）開催

主要ホテル情報連絡会での聞き取り 10/11実施



聞き取った論点の整理

11月 観光審議会 ※11/28実施



予算編成作業、庁内要望調整

12月 予算案確定



3月 議会審議

# 宿泊税の使途と観光振興ビジョン



使途方針	使途事業（案）	観光振興ビジョン 紐づけ	
		目指すべき地域の姿	基本戦略
地域内交通の充実	循環バス運行（増便・増系統、夏季運行等） 空港連絡バス運行、冬期タクシー強化 デマンドバス強化、DX化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質・高付加価値の国際リゾート</li> <li>・町民が誇れる国際リゾート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の多様な価値観への対応と受け入れ環境の整備</li> <li>・観光によって町民生活の質を高める</li> </ul>
宿泊事業者の地球環境負荷の低減を促進・支援	ニセコ町脱炭素・再エネ推進事業補助金（一般事業者）の宿泊事業者向けパワーアップ補助等（対象想定）太陽光発電・蓄電池・高効率IAPON・高効率給湯器（別途検討）廃プラスチック、排水浄化等支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成熟した通年型の国際リゾート</li> <li>・町民が誇れる国際リゾート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の多様な価値観への対応と受け入れ環境の整備</li> <li>・観光によって町民生活の質を高める</li> <li>・観光産業の安定的な経済活動と地域貢献</li> </ul>
観光協会組織強化、観光人材育成、観光DX化推進	観光協会人材、情報共有・プラットフォーム機能（事業者間連携）の強化、人材不足対策（スポットワーク等普及促進）人財確保緊急対策補助（事業者の雇用対策、職場環境改善事業への支援）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成熟した通年型の国際リゾート</li> <li>・高品質・高付加価値の国際リゾート</li> <li>・町民が誇れる国際リゾート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の多様な価値観への対応と受け入れ環境の整備</li> <li>・観光によって町民生活の質を高める</li> <li>・観光産業の安定的な経済活動と地域貢献</li> </ul>
景観・環境保全対策	景観や環境保全の取り組み、フットパスや自然体験等充実、ニセコルールの運用強化 ネガティブ情報払拭、観光客行動変容促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成熟した通年型の国際リゾート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の多様な価値観への対応と受け入れ環境の整備</li> </ul>
将来の観光需要への対応 ※年度間調整機能も	宿泊税基金条例への積立（例：災害・パンデミック対応等の初動事業費確保）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成熟した通年型の国際リゾート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客の多様な価値観への対応と受け入れ環境の整備</li> </ul>
特別徴収義務者の事務負担への支援	宿泊税事務処理促進交付金（宿泊税の5%） ※他自治体は2.5～3.0%		

想定税収：65,000千円

- 地域内交通の充実：約30,000千円
  - ・ニセコ周遊バスの運行（日数増、早朝便の循環便化、料金見直し等）
  - ・冬期タクシー対策（台数、ドライバー増）
  - ・カーシェアの冬期配置（新規2台）
  - ・夏季の地区間バスの運行（アンヌプリ⇔東山、※スカイバスと接続）
- 環境負荷の低減：R7に繰越
  - 町補助へのパワーアップ事業を想定。ただし、R6秋からの町補助（脱炭素・再エネ推進）開始につき、実際はR7から実施⇨基金で次年度繰越

※その他、対象となりうる事業はあるが、使途充当はせず、残額は基金化し、次年度以降に繰り越し、次年度以降の事業を充実させることとしたい

※実際の繰越額は、以下となる

繰越額 = 宿泊税収 - （上記の充当事業費 + 事務処理促進交付金（宿泊税の5%））





想定税収：162,000千円

- ・共通認識として課題感の強い地域内交通の充実に重点的に取り組む
  - 交通事業者の運転手不足も踏まえ、対策内容は協議継続
  - 既存交通（宿泊事業者運行、広域交通）との連携も検討
- ・まったなしの地球環境対策において、採択された環境省補助に独自に上乗せ補助することにより、観光分野での脱炭素・再エネ推進を促進する
  - 事業費が年度間で流動的となるので、基金で調整を図る
- ・地域内交通対策における運転手不足対応をはじめ、地域の人材不足に対して率先して取り組む事業者への支援やエリアとしての多様な働き方の推進（潜在的労働力の掘り起こし）に取り組む
- ・物価が高い、といったネガティブ情報の払拭（正しい情報、景観や自然といった魅力の発信強化）と夏の集客安定（季節変動平準化）に向けたマーケティング展開について検討していく



## ＜参考＞

# 使途の意見（主なもの、抜粋）





- ・タクシーやにこっとバスがなかなか捕まらないので、送迎対応を実施している。
- ・事前に到着／出発時間を把握するようにしているため、基本的にはスキー場への送迎のみだが、今冬は駅までの送迎も必要になるのではないかと感じている。
- ・モイワエリアへのアクセスがあまりよくないことが課題。
- ・にこっとバスについて、需要がひっ迫し、住民利用ができないケースも多々あると聞くので、住民利用が損なわれないことを前提として、観光客が利用できるようにすべき。乗り合いシステムについても検討するとよいのではないか。
- ・昆布エリアの交通の充実が必要。送迎も実施しているが、対応時間外の始発に乗りたいお客様がタクシーを捕まえられないケースが数件ある。
- ・観光客はニセコ町、倶知安町の違いは分からない。交通の充実にあたっては、ニセコ町・倶知安町両町で連動しないと、観光客の流動に繋がらない。
- ・雪道で車がスタックすると、移動に支障が生じるので、ロードヒーティングの充実をお願いしたい。
- ・空港や札幌からの夏のアクセスに課題があるので、なかなか入込に繋がらないのではないか。
- ・昨冬のニセコモデルによりかなり改善されたと感じている。インバウンド客の携帯でうまく認証ができず、代わりに手配したことが数件あったが、個人で手配できるので事業者側の負担も少なかった。
- ・カーシェアが冬にも継続されるのであれば、上述の宿泊客にも活用されると思う。



- ごみの分別についても、郷に入っては郷に従えということで、いろいろと啓発活動をしているが、文化の違い等もあり難しさを感じている。日本人／外国人を問わず、マナーが良くない人は良くない。
- ごみ問題等に使うべきと考えている。反対する事業者もいるかもしれないが、2月に実施した観光カフェで出たハンカチの作成（＝ペーパータオルを使わない）等に使ってほしい。
- ごみの分別についても、ルールが自治体間で異なることもあり、再仕分けに結構な時間を要しているとともに、何かしらのごみ対策も必要だと感じている。
- 冬期のゴミが大変問題となっている。収集小屋からあふれ出てくるほどであり、分別もされていないことが最大の悩みとなっている。ロングステイの観光客だけではなく、外国人スタッフもゴミ分別について理解していない。
- 外国人オーナーは、ちゃんと伝えれば理解していただけている。ただ、ゲストについては高い料金も払っていて、細かな分別まで求めるのは難しい。そこは、我々管理会社で対応している。
- 冬のごみステーションの状況がひどく、収集運搬会社や役場担当者に負荷がかかっている。カメラの設置等での予防は難しいか。



- 夏のニセコもすごい魅力的で、周囲の事業者も口をそろえて夏を何とかしたいといっているが、空港や札幌からのアクセスに課題があるとともに、閉まっている飲食店も一定数いるというのが現状。特定の事業者が頑張っても効果は小さいので、地域として夏も頑張ろうという方向性に向かうといいのではないか。
- 夏の魅力もたくさんあると思う一方で、夏に営業していないところも多いので、もう少し夏の入込につながるような施策に使えるとよい。
- 夏観光を盛り上げるための、自転車道路の整備、マウンテンバイクコース、有島公園に大きな公園を作る等夏のアクティビティへの投資に使ってほしい。
- 夏の誘客でバスのガイドツアー（五色やお花畑など）を継続的に作ってはどうか。
- 夏のコンテンツ（マウンテンバイク・涼しさ・トレイルランニング・パワースポットなど）はたくさんあるので、日帰りにならないストーリーを組んでPRし、単発ではなく継続した活動を続けた方がいい。
- 夏に営業しているのかがわからないところもあり、案内するときに困ることもあるので、調べやすい形での情報発信がなされれば、利用者・事業者双方にメリットがあるのではないか。

# 入込増加に向けた取組について



- 宿泊税は導入するけれども、税額見合い分割引になるクーポンを配布するといった対策が必要ではないか。
- いろいろと値上がりしていく中で、日本人が泊まりにくくなるようなことにならないようにすべきだし、値上がりプラス宿泊税となると敬遠されることにもなる気がするので、宿泊者にわかりやすい形で使途をきちんとお知らせしてほしい。
- リフト券が高く、日本人が滑るには難しい状況となっていており、滞在日数も短くなってきている。
- 二重価格についてはローカルと観光客のすみ分けがきちんとできるよう、行政主導で行ってほしい。
- 倶知安観光協会などのように、ニセコリゾート観光協会でもYoutubeチャンネルを作成するなど、SNSを使った情報発信に力を入れるべき。また、ニュースレターを新しく始めるべき。
- モイワからアンヌプリに抜ける林道を冬も除雪して通ることができれば、スキー場や飲食店への移動が行いやすくなるためぜひ検討していただきたい。
- ニセコにはせっかくいい温泉があるのに、登別などの周辺の温泉と比較して、PRが不足していると感じる。
- アンヌプリ森林公園を活用して何かできないか。  
(昔、ライオンアドベンチャーさんで朝のガイド付き散歩を行っていた)

# ニセコ価格報道の影響について



- GW～8月までマイナスで、ある意味コロナ禍にまで戻ったような感覚。
- 素泊まり限定ということもあってか、むしろもっと高くすべきという風に言われるくらいで、特段影響は感じていない。
- GW・夏ともに前年比マイナスのなので、少なからず影響があるのではないかと。雪質の変化等とあわせて、海外にも情報として伝わっているという感覚。
- 春～秋にかけて、例年から2～3割減となっていて、近隣の事業者からも同様な話を聞く。一方で、「ニセコに足を運んでみたらそんなに高くなかった」というお声も聴くことがある。
- 報道で面白おかしくフィーチャーされていることもあり、リピーターにまでも影響が生じている。
- 入込は減少しているが、それはあくまで域内の宿泊施設が提供するサービスの向上によるパイの奪い合いによるもので、報道の影響によるものではないと考えている。
- 確かに夏は前年比1～2割程度マイナスだが、むしろ昨年がコロナ明けのリバウンドで宿泊者が多かったのが、今年は落ち着いたことによるものと考えていて、報道の影響はあまりないと考えている。今年は昨年比で落ち込むものと考えていたので、予め単価を高め設定しており、結果として夏の営業利益は昨年比でプラスとなっている。
- 食が高い（ニセコ価格）と言っている人はほぼニセコに来ない人が、一方的な情報だけで言っているだけ。来ている人はきちんと調べてきている。そのための対応は無くてもいいのではないかと。



- SDGs未来都市をはじめ、SDGsに関する取組をしていると思うが、住んでいる人にそれがあまり届いていないと感じている。
- 交通の充実とあるが、自家用車で来ること多い工事関係者には、何のメリットもなくただ宿泊税を徴収されるだけとなる。工事関係者への還元策の検討を強く望む。
- 宿泊者の理解を得るためにも、宿泊税が何に使われているのが目に見えてわかるようにしてほしい。説明にあたっては、紙媒体が一番説明しやすい。
- 人手不足については、ワーキングホリデー制度の対象国がもっと増えてくれると助かる。今期は確保できているが。
- ニセコ町のように事業者から意見や用途を聞く機会の設定はこれからも是非設けていただきたい。
- 事業者間連携については、お互いの宿の紹介・不足したときのリネンの提供などはしている。
- 宿泊施設、飲食店等の事業者同士の横のつながりの充実は重要で、人手不足をはじめとして同じ悩みを抱えていると思うので、そうした機会の創出はお願いしたい。
- 事業者からの意見の聞き取りについて、インターネットアンケートのようなものも検討してもらえれば、なかなか参加できない事業者や大勢の前で意見を言いづらい事業者からも意見が吸い上げられるのではないかな。
- 水道インフラが不足。